

平成 28 年 11 月 10 日
愛 媛 大 学

文京遺跡 60 次調査の成果について

—縄文時代晩期末から弥生時代前期初頭の畠跡の発見—

(記者説明会の実施)

このたび、愛媛大学埋蔵文化財調査室は、2014 年に実施した文京遺跡 60 次調査の発掘調査とその後の調査データ分析によって、縄文時代晩期末から弥生時代前期初頭（国内最古）の畠跡を確認しました。畠跡は谷の落ち際の斜面に立地し、畝立をしていない小規模な畠跡で、繰り返し耕耘作業を行っていました。

今回の調査・研究成果によって、栽培植物の分析を中心に進められていた縄文時代の農耕研究を、畠跡という農耕地の視点から見直すことが可能となります。また、畠跡で実際に行われた作業を明らかにできたことは、当時の農耕技術を考える上でも重要な成果です。

つきましては、下記のとおり記者説明会を実施しますので、是非取材くださいますよう、お願いいたします。

記

日 時：平成 28 年 11 月 21 日（月）10 時 00 分～

場 所：愛媛大学本部棟 1 階 第 3 会議室（松山市道後樋又 10 番 13 号）

会見者：埋蔵文化財調査室 室長・教授 田崎 博之

埋蔵文化財調査室 講師 三吉 秀充

※ 送付資料 2 枚（本紙を含む）

本件に関する問い合わせ先

埋蔵文化財調査室

室長・教授 田崎 博之

講師 三吉 秀充

TEL：089-927-9127



写真1. 文京遺跡 60次調査地全景



写真2. 畠跡を耕耘した痕跡